

令和6年上半期における交通人身事故の発生状況について

【令和6年上半期の交通人身事故概要】(資料1)

- ・ 交通人身事故件数:5,973件(前年比-438件)
- ・ 死者数:72人(同+15人)【内訳:子供1人、若者3人、その他35人、高齢者33人】
- ・ 負傷者数:7,083人(同-601人) うち重傷者数:703人(同-1人)

[主な特徴]

- ・ 四輪乗車中死者が27人で約4割(37.5%)を占めており、このうち高齢者が17人で約6割(63.0%)を占めている。また、事故類型別では、単独と正面衝突で約9割(85.2%)を占めている。(資料1、5)
- ・ 死者数のうち、その他の年代が35人で約5割(48.6%)を占めている。(資料1)
- ・ 65歳未満の歩行中死者・重傷者は、昨年同期と比べて約2割(23.5%)増加しており、このうち夜間の飲酒ありの構成率が高い。また、事故類型別では、横断歩道横断中が最も多いほか、路上横臥の増加が目立つ。(資料2)
- ・ 75歳以上の運転者による死亡・重傷事故の人的要因は、75歳未満と比較して操作不適が多く、その中でもブレーキとアクセルの踏み間違いの占める割合が高い。(資料3-2)
- ・ 自転車乗用中死傷者のヘルメット着用率は16.0%で、昨年同期(13.0%)と比較して増加している。(資料4-1)
- ・ 自転車に関係する死亡・重傷事故のうち、出会い頭が約5割(49.0%)と多い。(資料4-2)
- ・ 飲酒運転による交通人身事故は67件(前年比+10件)で、このうち死亡事故は2件(同-2件)である。(資料6-1)

※飲酒運転詳細分析(資料6-2)

- ・ 飲酒先は、飲食店が全体の約6割(55.2%)を占めている。
- ・ 飲酒終了から運転開始までの経過時間のうち、1時間以上経過後での運転開始が約7割(71.6%)を占めている。
- ・ 運転開始場所は、コインパーキングと飲食店駐車場で約5割(46.3%)を占めている。

注1:「死亡」とは、交通事故発生から24時間以内に当事者が亡くなった事故をいう。

2:「重傷者」とは、交通事故により負傷したものであって、1か月(30日)以上の治療を要する者をいう(医師の診断を基準としている。)

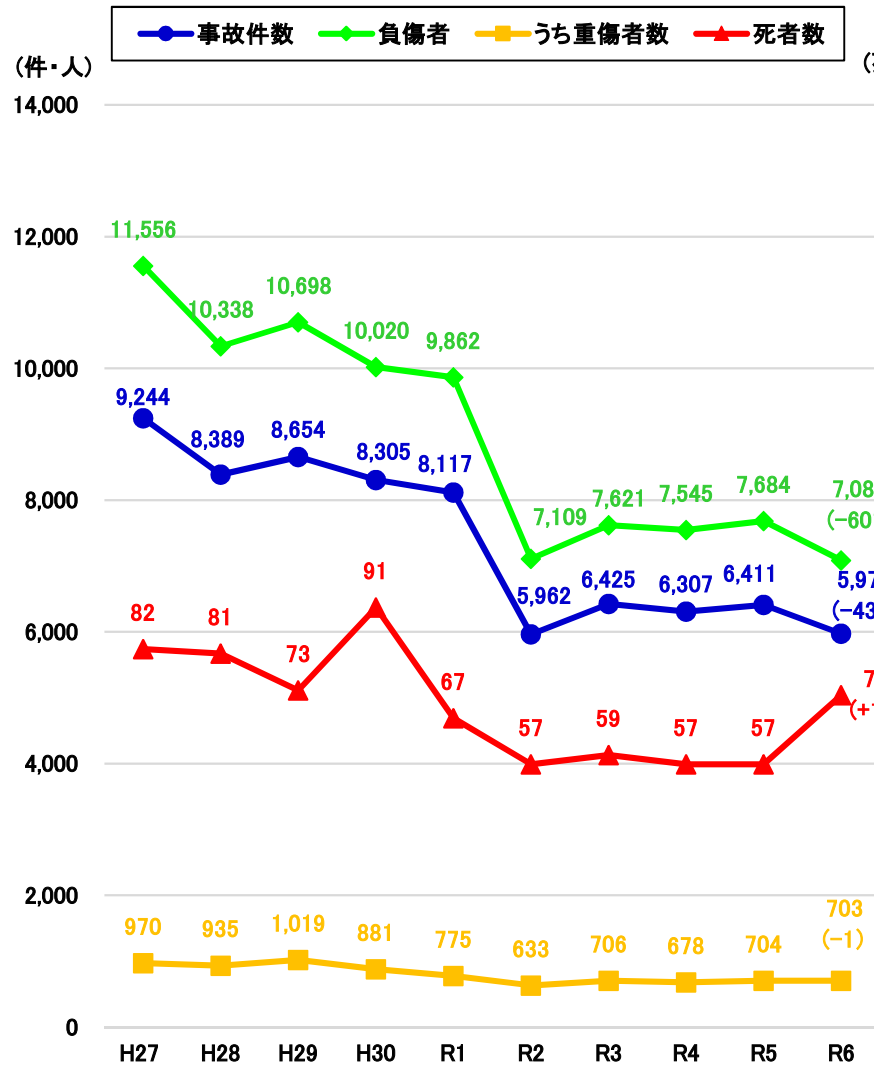
3:「子供」とは、中学生までの者、「若者」とは、15歳以上24歳以下(中学生を除く。)の者、「その他」とは、25歳以上64歳以下の者、「高齢者」とは、65歳以上の者をいう。

4:「飲酒運転による人身事故」とは、原付以上の運転者(自動車、自動二輪車及び原動機付自転車)が飲酒運転で第1当事者となった死傷事故をいう。

5:数値は、単位未満で四捨五入してあるため、合計等が内訳の数値と一致しない場合がある。

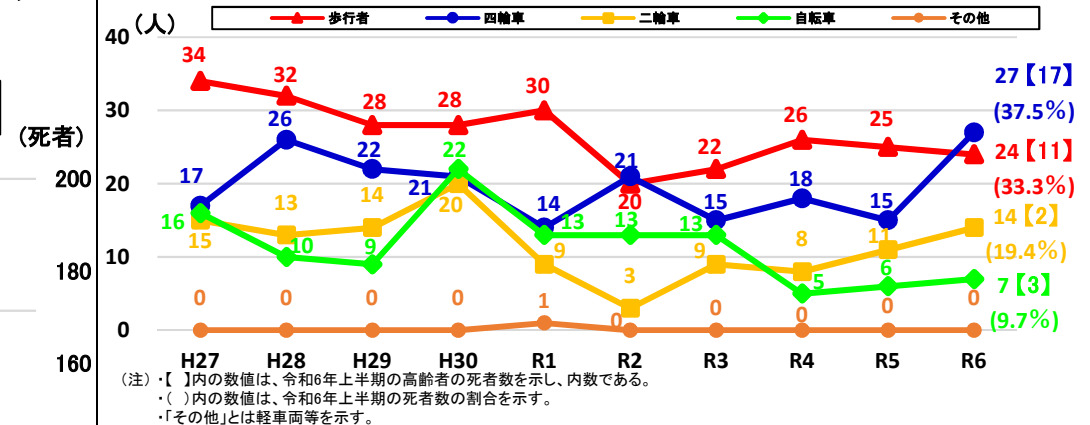
1 交通人身事故発生状況

交通人身事故件数・負傷者数・重傷者数・死者数の推移【各年上半期】



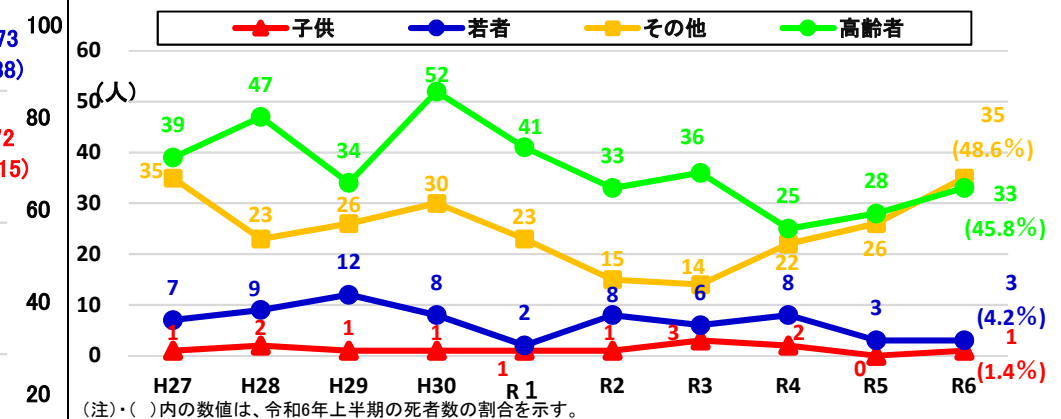
(注)・重傷者数は、負傷者数の内数を示す。
・()内の数値は、前年比を示す。

状態別死者数の推移【各年上半期】



【参考】	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
死傷者数										
歩行者	1,532	1,331	1,429	1,407	1,395	1,077	1,116	1,162	1,197	1,128
自転車	2,097	1,963	1,982	2,028	1,999	1,438	1,682	1,547	1,525	1,423
二輪車	1,053	966	1,012	987	919	711	783	731	788	738
四輪車	6,928	6,150	6,335	5,669	5,594	3,928	4,090	4,149	4,217	3,858
その他	28	9	13	20	22	12	9	13	14	8

年代別死者数の推移【各年上半期】



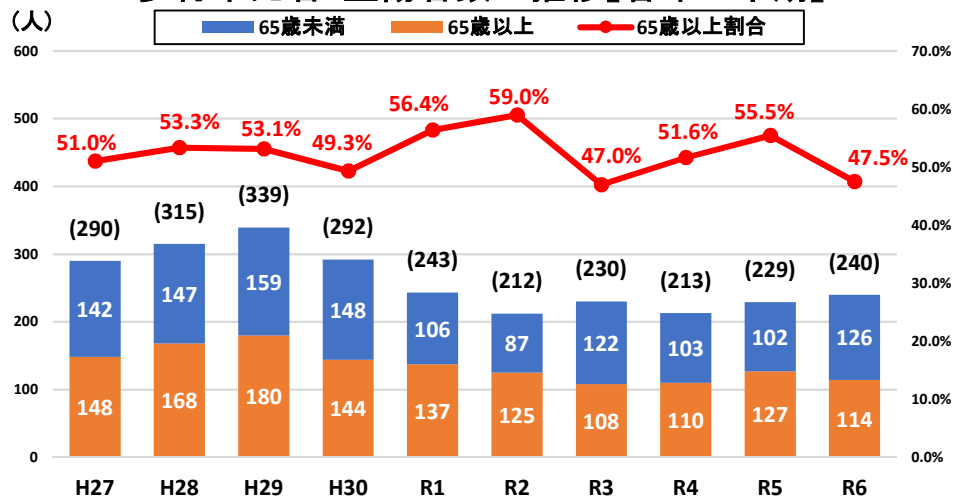
【参考】	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
死傷者数										
子供	950	770	830	739	704	435	535	523	571	511
若者	1,602	1,454	1,396	1,333	1,308	917	1,033	1,049	999	933
高齢者	1,810	1,671	1,725	1,765	1,748	1,319	1,269	1,236	1,268	1,184
その他	7,276	6,524	6,820	6,274	6,169	4,495	4,843	4,794	4,903	4,527

【令和6年上半期の特徴】

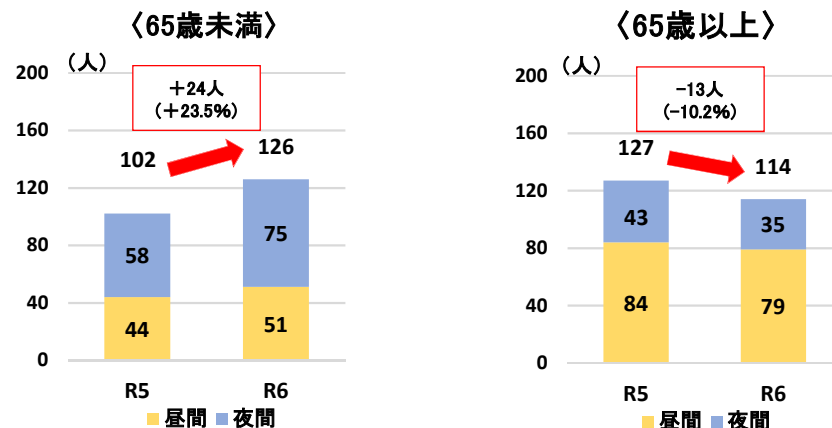
- ・交通人身事故件数、死者数、負傷者数及び重傷者数は令和2年に大きく減少して以降、横ばいであったが、令和6年上半期は、去年同期と比べて死者数が増加した。
- ・死者数のうち、状態別では四輪乗車中が約4割(37.5%)を占めており、このうち高齢者が17人で約6割(63.0%)を占めている。また、年代別では、その他の年代(25歳から64歳)が約5割(48.6%)を占めている。

2 歩行者が関係する死亡・重傷事故の発生状況

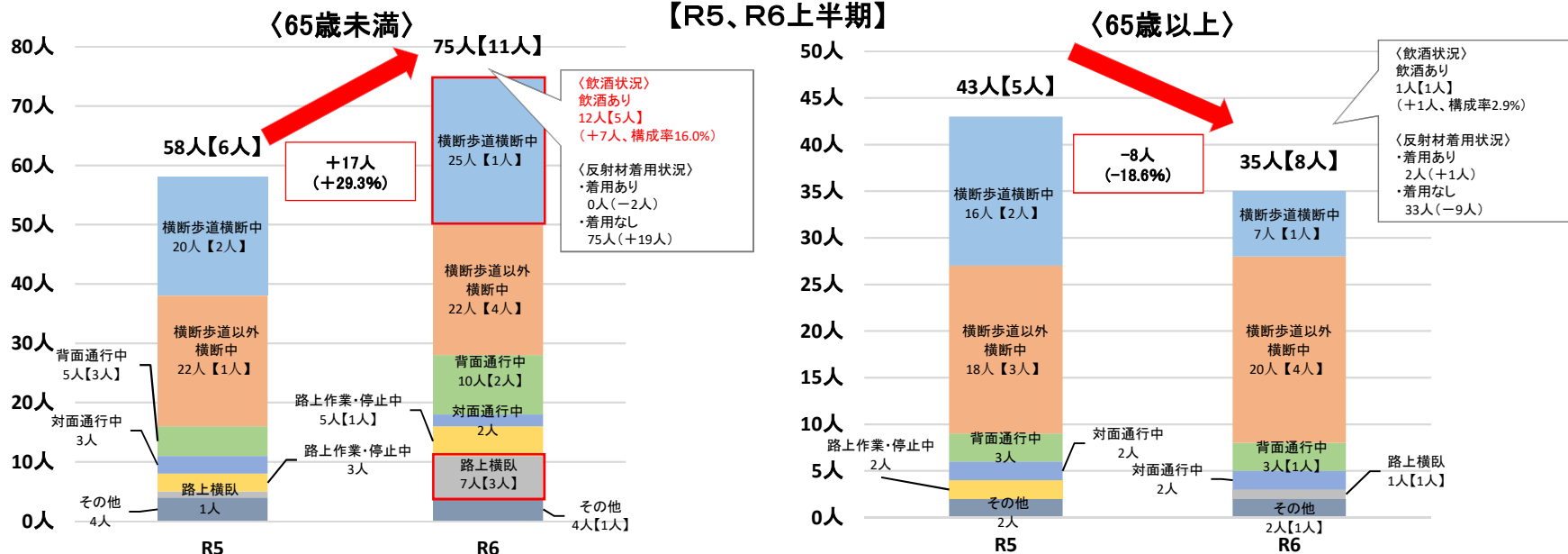
歩行中死者・重傷者数の推移【各年上半期】



昼夜別歩行中死者・重傷者数比較【R5、R6上半期】



夜間における年齢層別事故類型別歩行中死者・重傷者数比較【R5、R6上半期】



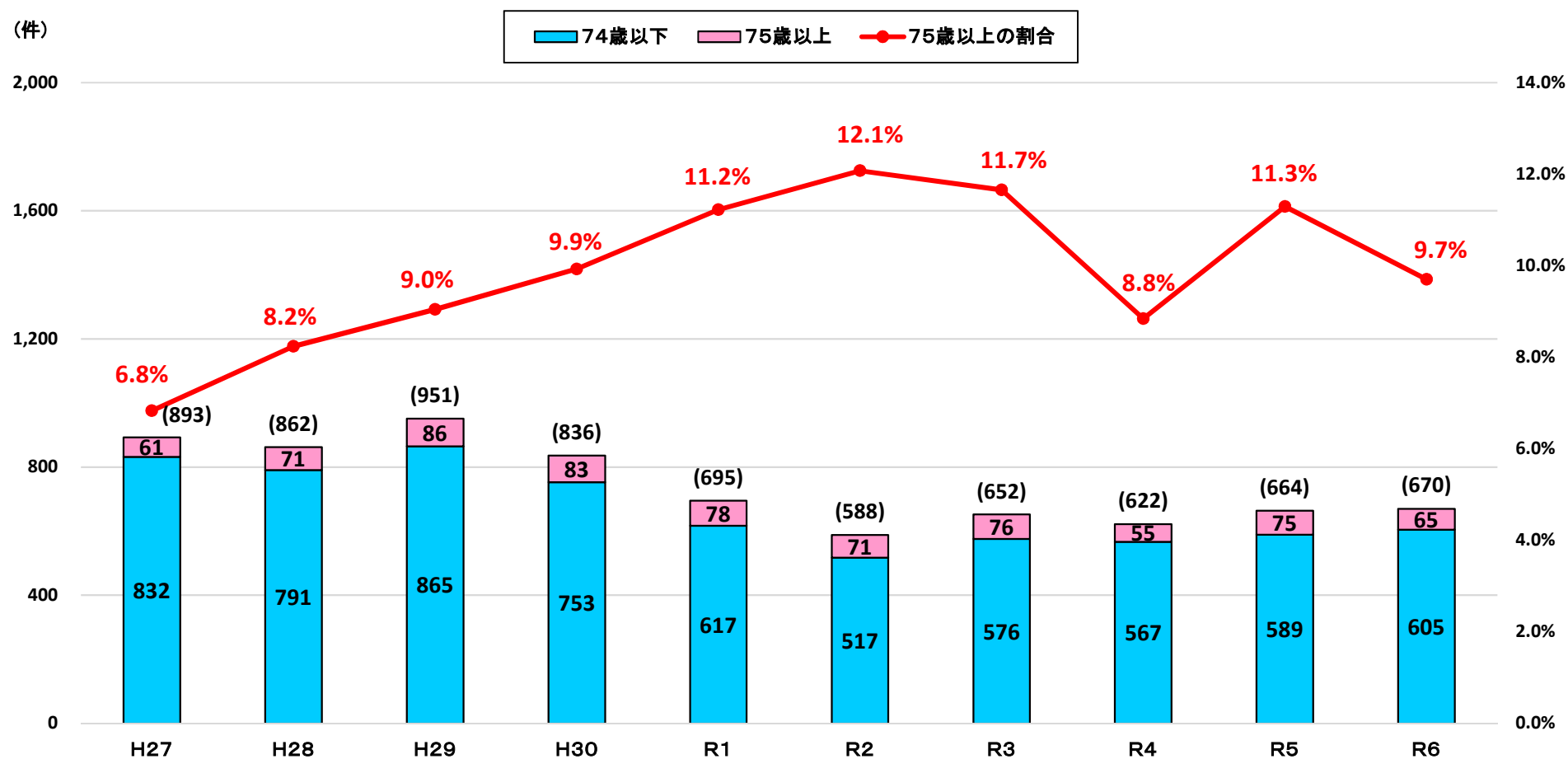
(注)・【】内の数値は、死者数を示し、内数である。

【令和6年上半期の特徴】

- ・歩行中死者・重傷者は昨年と比べて65歳未満が約2割(23.5%)増加しており、このうち昼夜別では、特に夜間が増加している。
- ・65歳未満の歩行中死者・重傷者のうち、夜間の飲酒ありの構成率が高い。また、事故類型別では、横断歩道横断中が最も多いほか、路上横臥の増加が目立つ。

3-1 高齢運転者が関係する死亡・重傷事故の発生状況(1当原付以上)

高齢運転者による死亡・重傷事故件数の推移【各年上半期】



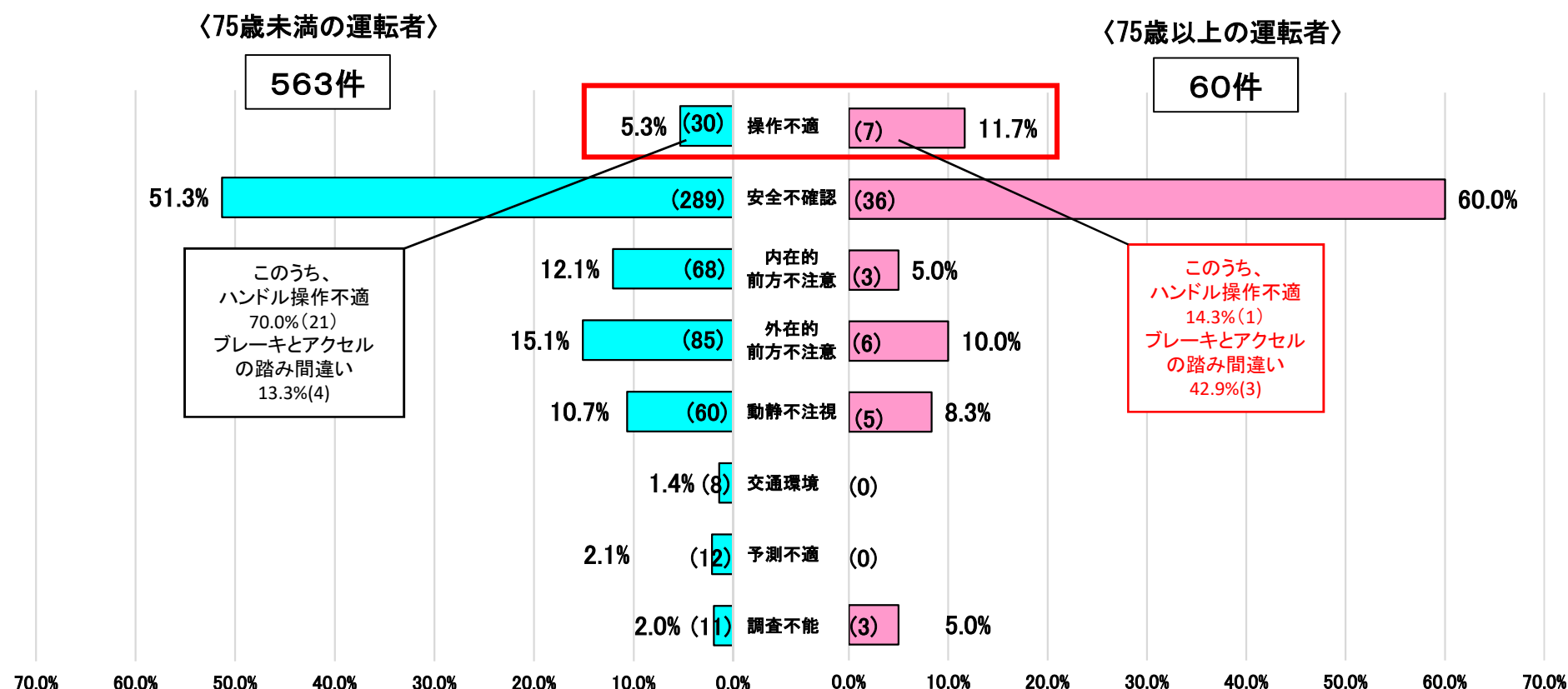
(注)・第1当事者が原付以上の件数である。・()内の数値は、死亡・重傷事故件数を示す。

【令和6年上半期の特徴】

・75歳以上の高齢運転者による死亡・重傷事故は、昨年同期より減少している。

3-2 高齢運転者が関係する死亡・重傷事故の発生状況(1当四輪車)

死亡・重傷事故の人的要因比較【令和6年上半期】



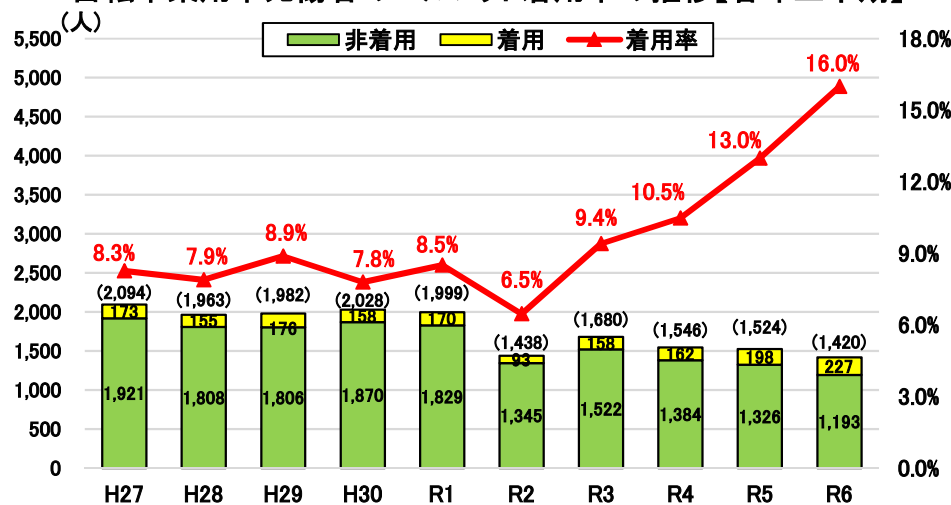
(注)・第1当事者が乗用車、貨物車及び特殊車の件数である。・()内の数値は、死亡・重傷事故件数を示す。

【令和6年上半期の特徴】

・75歳以上の運転者による死亡・重傷事故の人的要因は、74歳以下と比較して、操作不適の割合が高く、その中でもブレーキとアクセルの踏み間違いが多い。

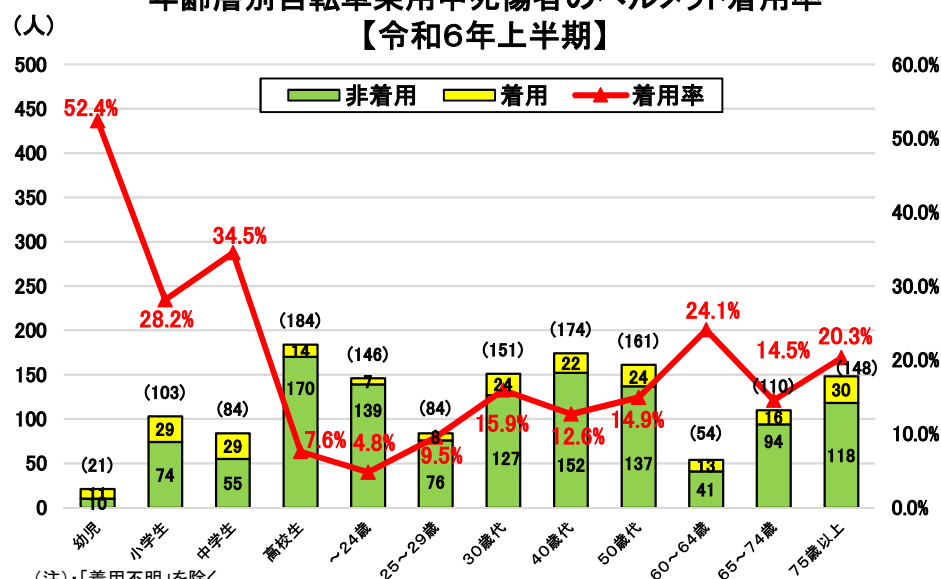
4-1 自転車関係する死亡・重傷事故の発生状況

自転車乗用中死傷者のヘルメット着用率の推移【各年上半期】



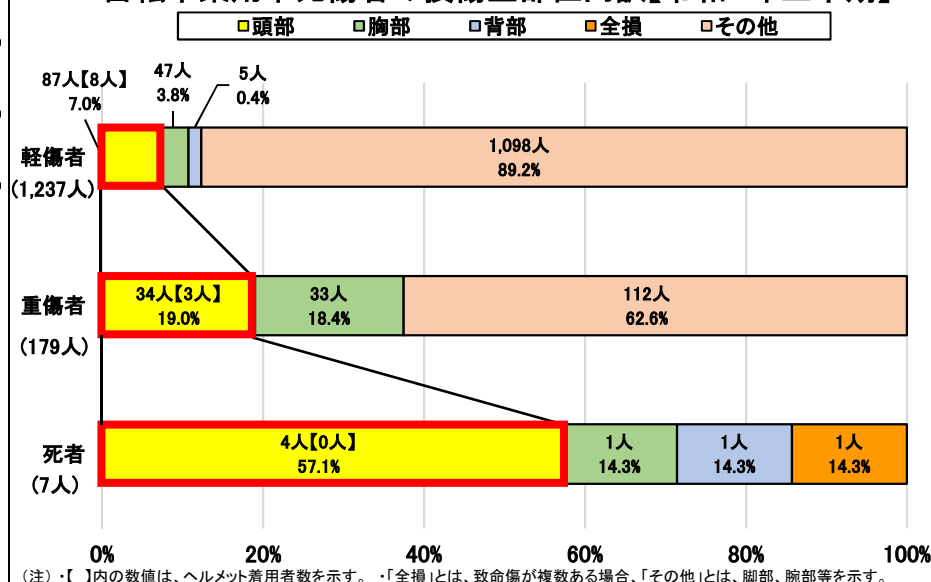
(注)・「着用不明」を除く。

年齢層別自転車乗用中死傷者のヘルメット着用率【令和6年上半期】



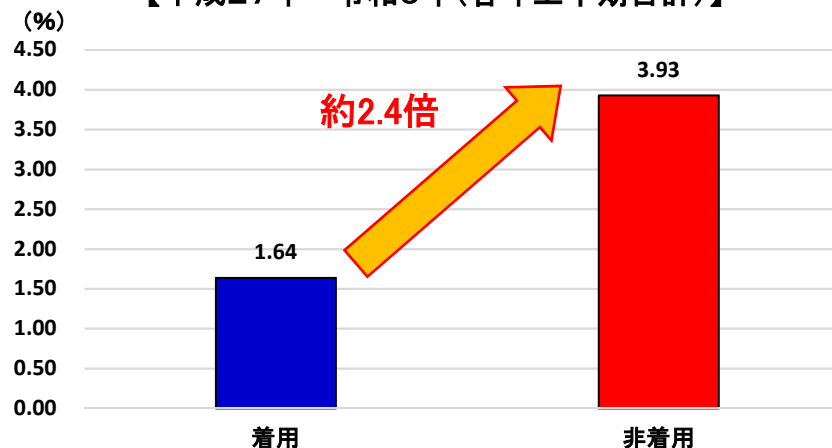
(注)・「着用不明」を除く。

自転車乗用中死傷者の損傷主部位内訳【令和6年上半期】



(注)・【 】内の数値は、ヘルメット着用者数を示す。・「全損」とは、致命傷が複数ある場合、「その他」とは、脚部、腕部等を示す。

頭部損傷によるヘルメット着用状況別の致死率比較【平成27年～令和6年(各年上半期合計)】



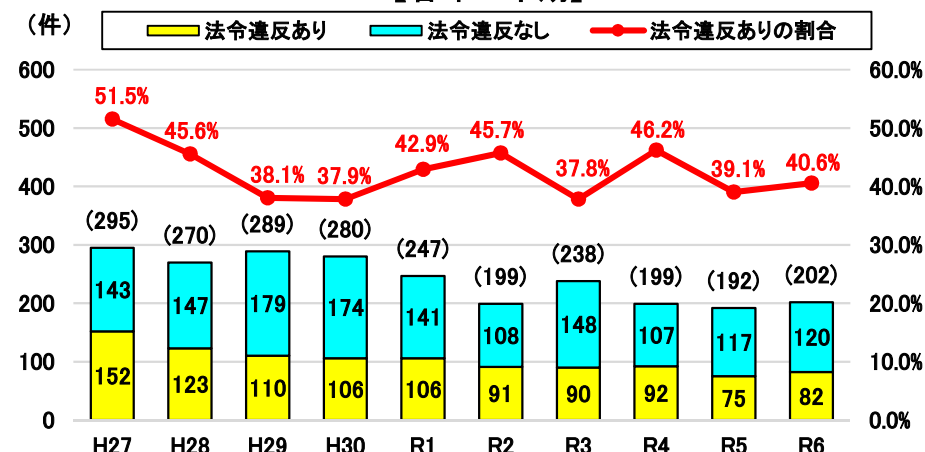
(注)・「致死率」とは、死傷者のうち死者の占める割合をいう。

【令和6年上半期の特徴】

- ・自転車乗用中死傷者のヘルメット着用率は16.0%で、去年同期と比較して増加しており、その中でも中学生以下(幼児:52.4%、小学生:28.2%、中学生:34.5%)の着用率が高い。
- ・自転車乗用中死傷者の損傷主部位では、重篤なほど頭部損傷の占める割合が高く、死者の約6割(57.1%)を頭部が占めている。

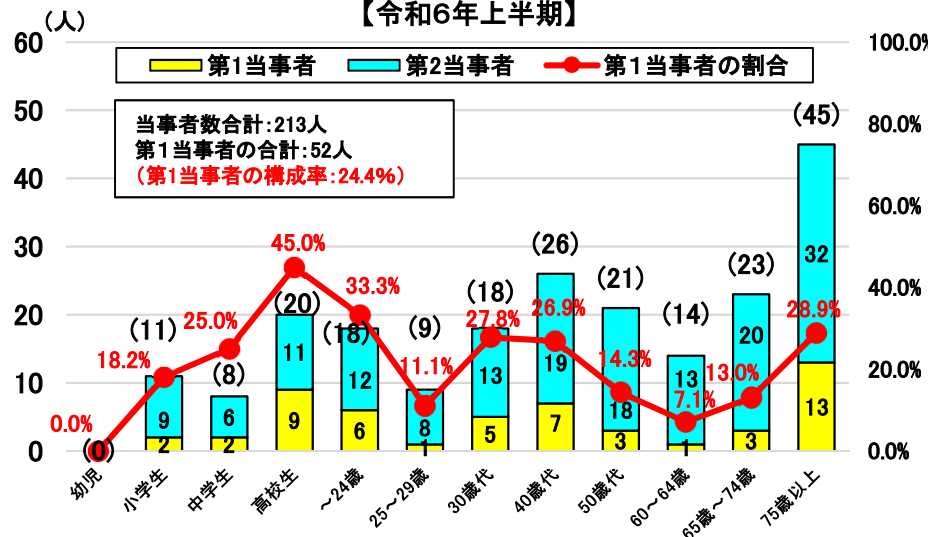
4-2 自転車に関する死亡・重傷事故の発生状況

自転車に関する死亡・重傷事故件数と法令違反状況の推移
【各年上半期】



(注)・自転車乗用者が第1又は第2当事者となった事故の件数であり、自転車乗用者に法令違反がある事故を「法令違反あり」として集計した。
・()内の数値は、死亡・重傷事故件数を示す。
・自転車相互事故は、1件として計上した。

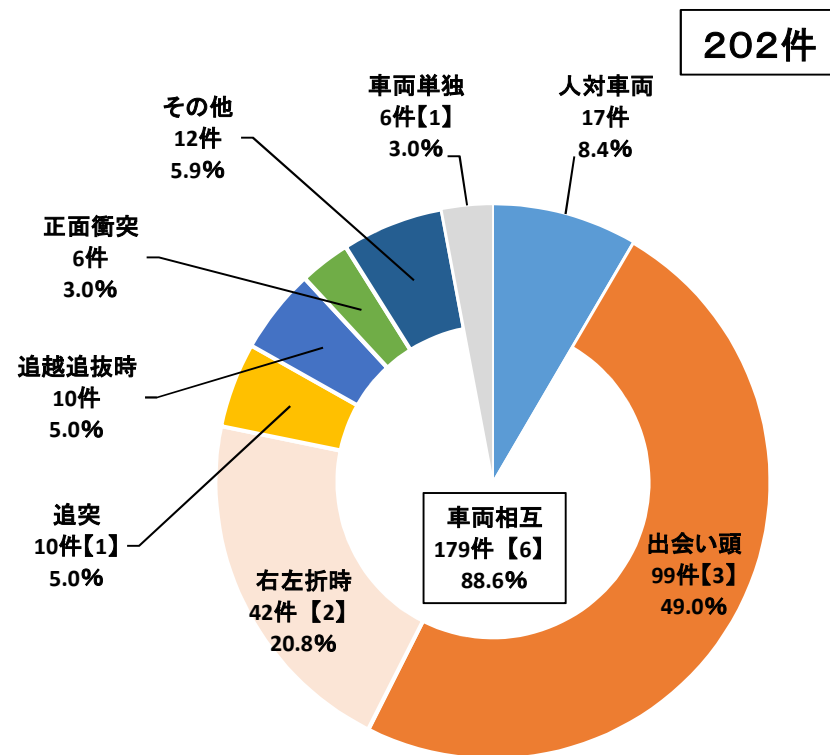
自転車に関する死亡・重傷事故における
年齢層別自転車乗用中当事者数(第1当事者・第2当事者)
【令和6年上半期】



【令和6年上半期の特徴】

- ・自転車に関する類型別死亡・重傷事故は令和4年以降はほぼ横ばいで推移しており、そのうち自転車に法令違反がある割合は約4割で推移している。
- ・死亡・重傷事故における自転車乗用中当事者は75歳以上が最多であるが、第1当事者の割合は、高校生が最も高い。
- ・事故類型別では、出会い頭が約5割(49.0%)を占める。

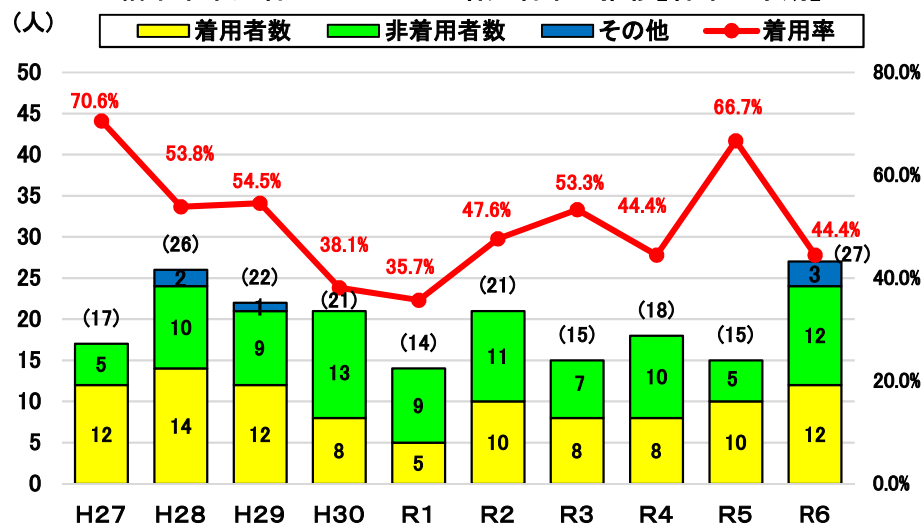
事故類型別自転車関連死亡・重傷事故件数
【令和6年上半期】



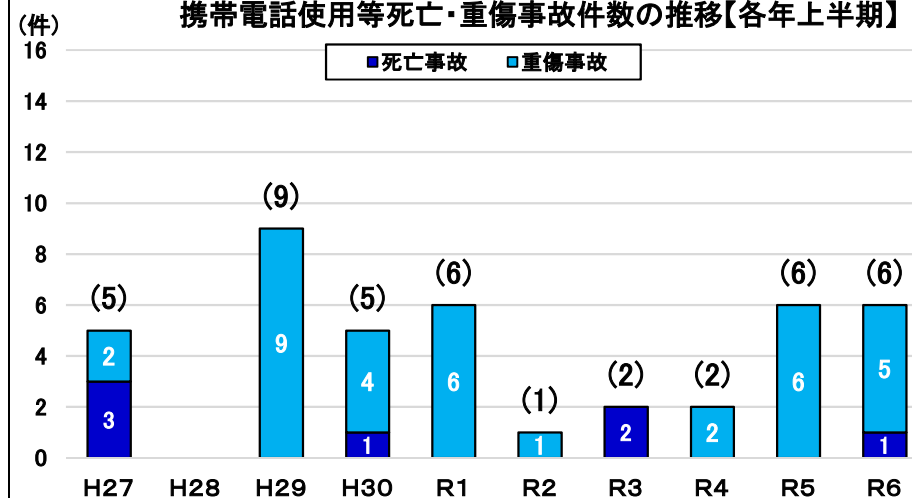
(注)・自転車相互事故については、第1・第2当事者それぞれの法令違反を1件として計上した。
・【】内の数値は、死亡事故件数を示し、内数である。

5 四輪車が関係する死亡・重傷事故の発生状況

四輪乗車中死者のシートベルト着用者率の推移【各年上半期】

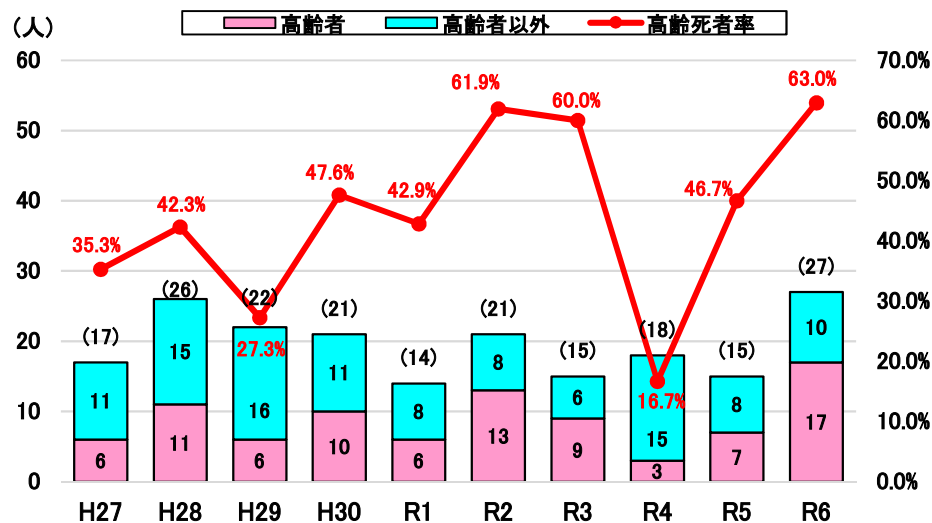


携帯電話使用等死亡・重傷事故件数の推移【各年上半期】

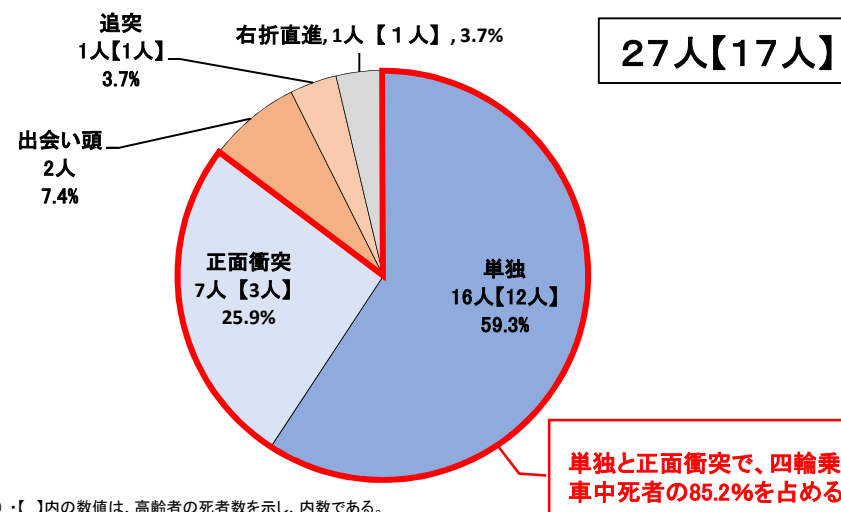


(注) ・第1当事者が自動車(乗用車、貨物車、特殊車)の件数である。
・携帯電話・スマートフォン等の使用が要因となって発生した事故を集計した。

四輪乗車中死者数の推移【各年上半期】



事故類型別四輪乗車中死者数【令和6年上半期】



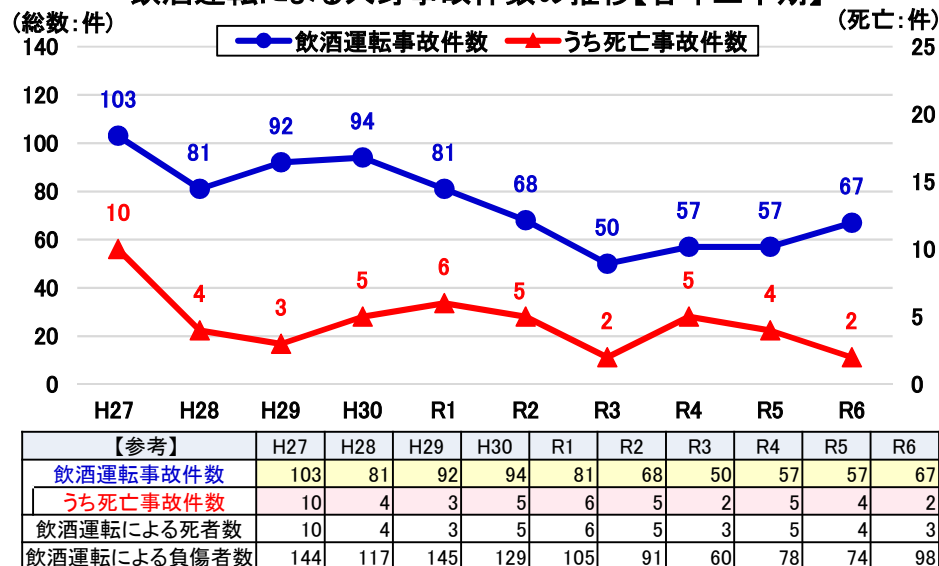
(注) ・【 】内の数値は、高齢者の死者数を示し、内数である。

【令和6年上半期の特徴】

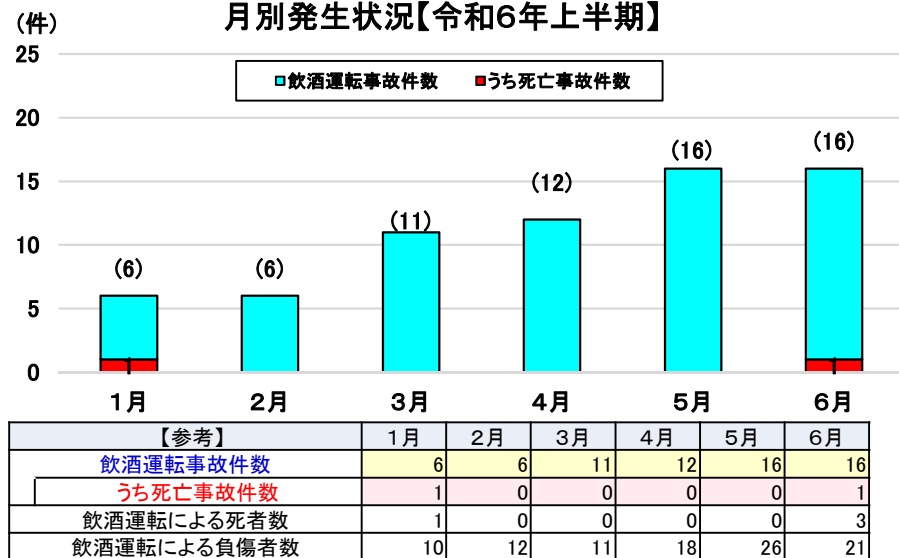
- ・四輪乗車中死者のシートベルト着用率は、昨年同期よりも低い。
- ・携帯電話使用等に死亡・重傷事故の発生は令和5年に増加して以降、横ばいである。
- ・四輪乗車中死者数は、昨年同期よりも1.8倍増加している。また、事故類型別では、単独と正面衝突で全体の約9割(23人、85.2%)を占める。

6-1 飲酒運転による交通人身事故発生状況

飲酒運転による人身事故件数の推移【各年上半期】



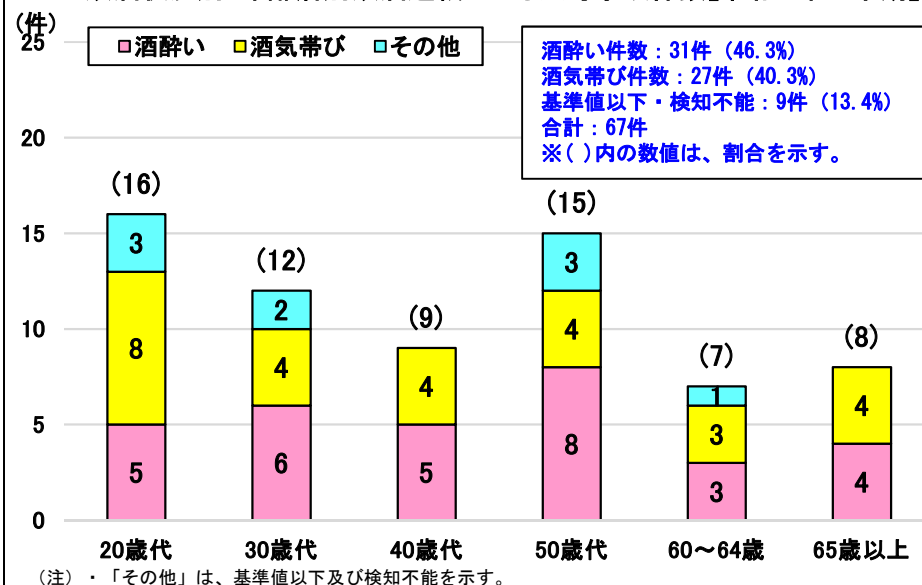
月別発生状況【令和6年上半期】



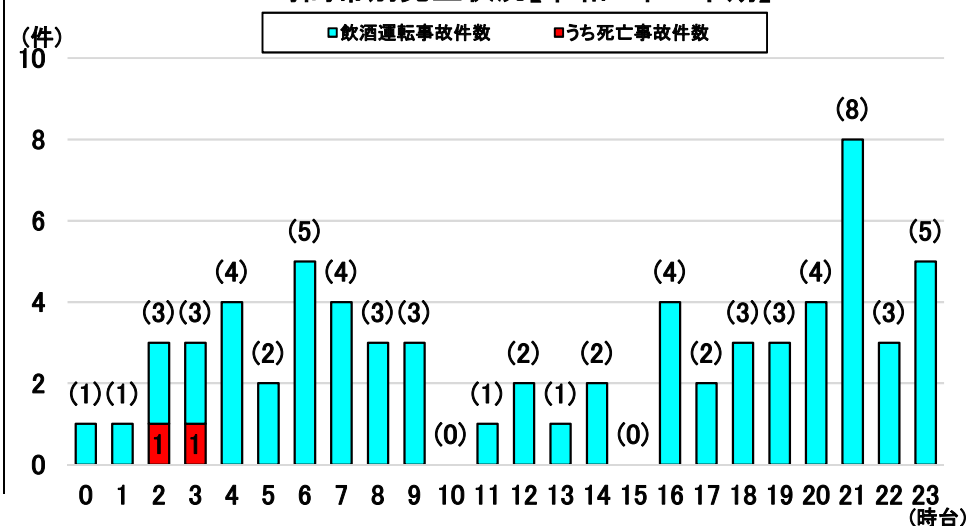
【令和6年上半期の特徴】

- ・飲酒運転による交通人身事故は、67件（前年同期比+10件）で、このうち死亡事故は2件（同-2件）である。
- ・月別では、5月及び6月が多い。
- ・発生時間帯で見ると、早朝、深夜帯（2時台から7時台及び20時台から23時台）に多く発生しており、死亡事故は全て夜間帯に発生している。
- ・年齢層別では、20歳代が最多となっており、次いで50歳代が多い。

飲酒状況別・年齢層別飲酒運転による人身事故件数【令和6年上半期】



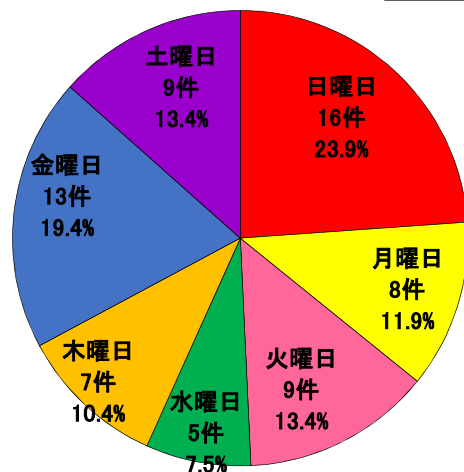
時間帯別発生状況【令和6年上半期】



6-2 飲酒運転による交通人身事故発生状況

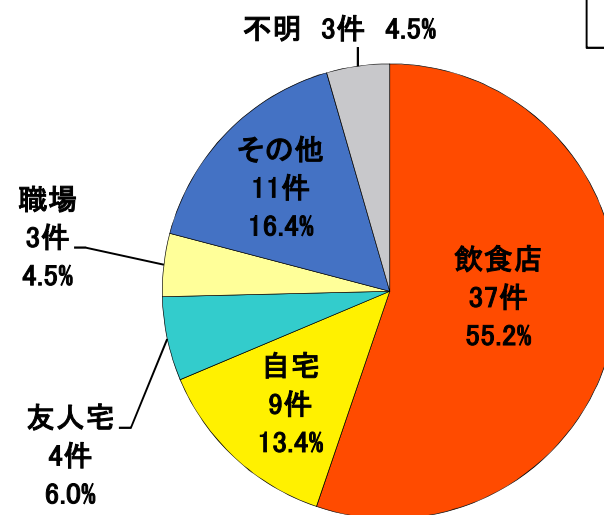
曜日別発生件数【令和6年上半期】

67件



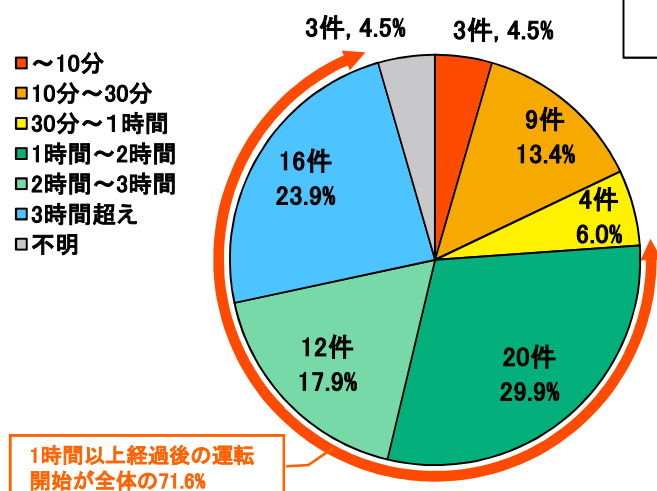
飲酒運転者の飲酒先【令和6年上半期】

67件



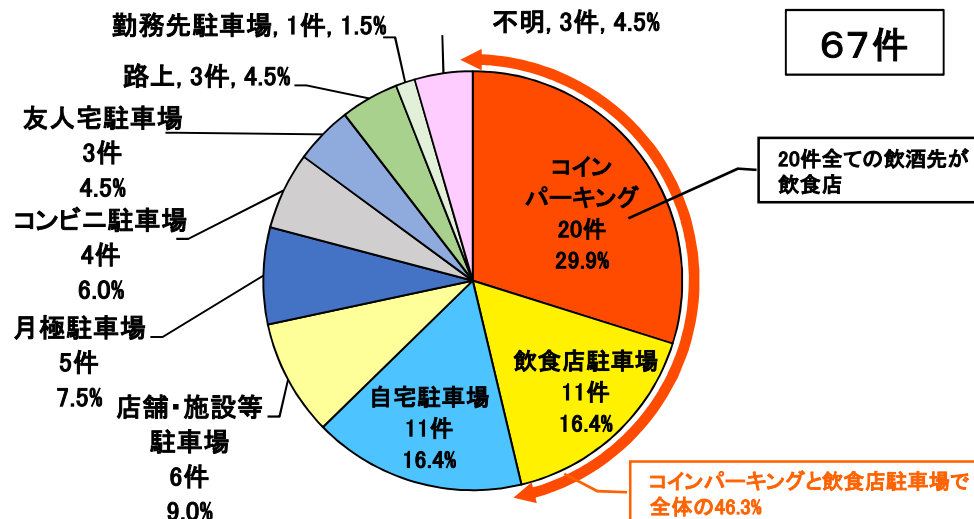
飲酒終了から運転開始までの経過時間【令和6年上半期】

67件



飲酒運転開始場所【令和6年上半期】

67件

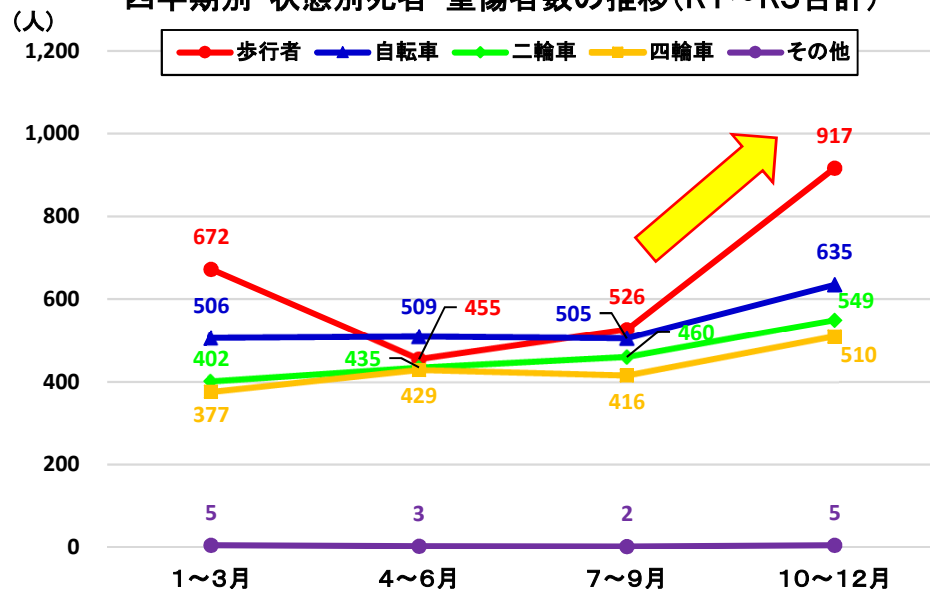


【令和6年上半期の特徴】

- ・飲酒先は、飲食店が約6割(37件、55.2%)を占めている。
- ・飲酒終了から運転開始までの経過時間のうち、1時間以上経過後の運転開始が約7割(48件、71.6%)を占めている。
- ・運転開始場所は、コインパーキングと飲食店駐車場で約5割(31件、46.3%)を占めている。

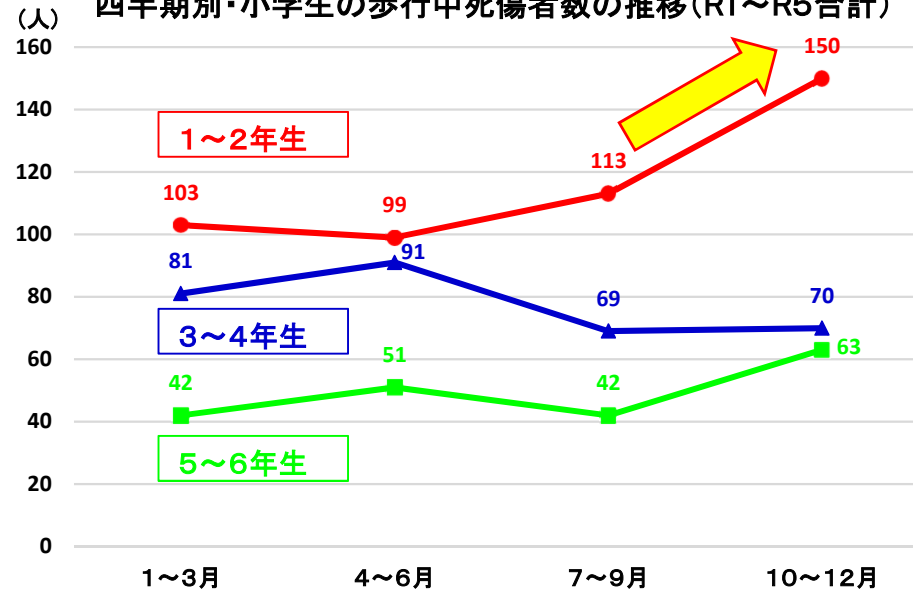
【特集】 年末3か月における交通人身事故の特徴

四半期別・状態別死者・重傷者数の推移(R1～R5合計)

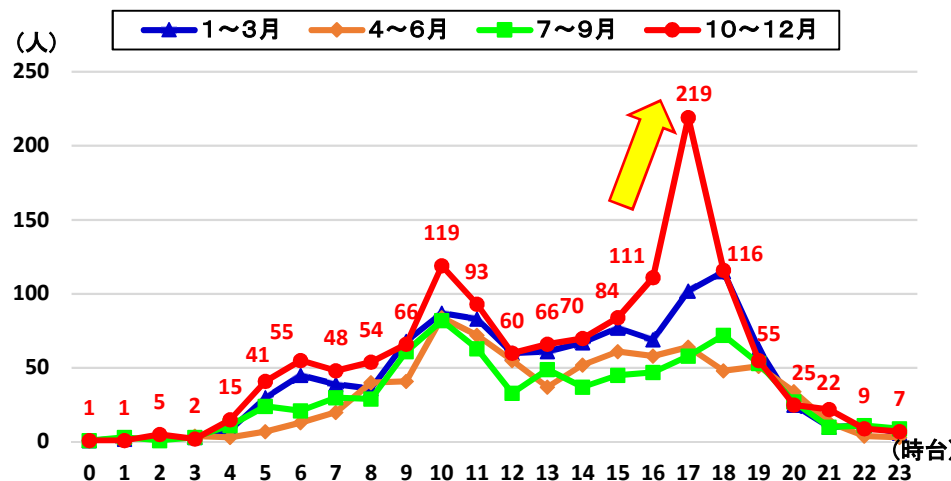


(注)・「その他」とは軽車両等を示す。

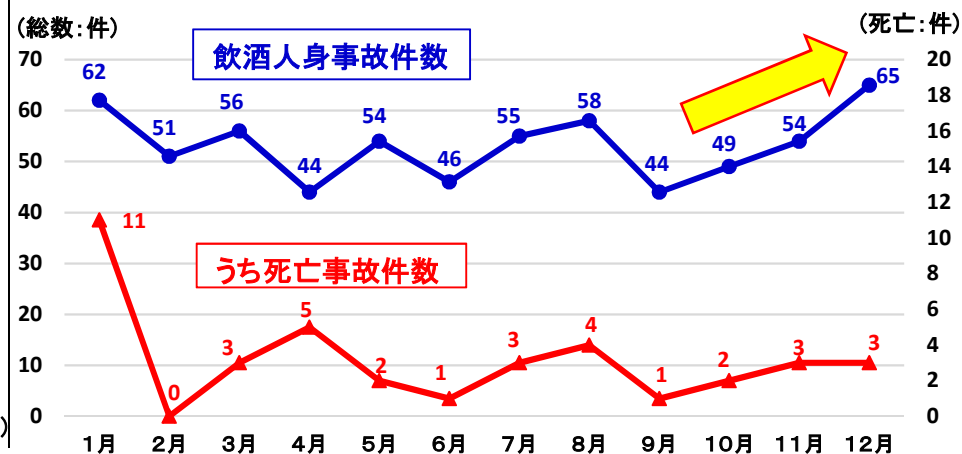
四半期別・小学生の歩行中死傷者数の推移(R1～R5合計)



時間別・高齢者の歩行中死傷者数の推移(R1～R5合計)



月別・飲酒運転による人身事故件数の推移(R1～R5合計)



【年末3か月における交通人身事故の特徴】

- ・状態別死者・重傷者数では、歩行者の死者・重傷者が、10月～12月は7～9月と比較して増加(+74.3%)している。
- ・高齢者の歩行中死傷者数では、17時台が他の時間帯と比較して突出している。
- ・小学生の歩行中死傷者数では、10～12月の1～2年生の死傷者が、7～9月と比較して増加(+32.7%)している。
- ・飲酒運転による交通人身事故は、年末にかけて増加する傾向にある。